

編集後記

本号は、様々な意味で過渡期に位置する号で、新たな試みもいくつかおこないました。

まず第一に、COE研究の新体制の安定が未だ確立されていないことを反映してか、投稿論文が従来よりも減少しました。この点は、しかし一時的な現象と考えられます。

第二に、初めて英語論文が寄稿・掲載されたことが挙げられます。編集委員会としては、紙面構成や執筆者との連絡方法に関する課題の克服を余儀なくされました。その結果、外国語論文も従来の二段組を踏襲すること、要旨は日本語訳も掲載すること等が決められ、校正等、海外の筆者と連絡を取る必要がある場合の連絡及び経費運用の方法を確定するなど、雑誌編集にかかる事項が決定されました。

第三に、印刷委託業者の変更があったことが挙げられます。技術面、コスト面など様々な観点から、新たに㈱石川特殊特急製本に印刷業務を委託することとなりました（ただし表紙デザインに関してはこれまで通りインビジブルの門田氏に委託しています）。

第四に、編集後記は従来、編集委員全員が執筆していましたが、今号から委員長と編集主任のみで担当することになりました。なお、ニュース原稿中の年次表記については、国際化推進の観点から、原則として西暦に統一いたします。

最後になりましたが、ご寄稿くださった執筆者の皆様、編集事務の方々、その他関係者のみなさんに厚くお礼申し上げます。また、本誌に関してご意見がおありの節は、編集委員会あて、どうぞ忌憚なきところをお聞かせください。

よろしく申し上げます。

(仁木 宏・編集委員長／高梨友宏・第6号編集主任)